



中国労災病院

Chugoku Rosai Hospital

第180号

令和5年1月

ニュース

地域医療連携 News

平素より中国労災病院が大変お世話になり、誠にありがとうございます。

地域医療連携News第180号を発行致しました。今後とも連携の程よろしくお願い申し上げます。

中国労災病院理念

働く人と地域の人のために患者中心の良質な医療を提供します。

中国労災病院の基本方針

- 個人の尊厳と権利を尊重し、高度で安全な医療を推進します。
- 地域の医療機関と連携し、救急・急性期から慢性期までの一貫した医療を実践します。
- 最新の医学に基づいた専門的な医療を実践します。
- 働く人の健康を守り、治療と仕事の両立を支援します。
- 周産期医療を充実させ、未来を担う子供たちを支援します。
- 優れた人材を育て、働きがいのある職場づくりを推進します。

初期臨床研修の理念

当院の初期臨床研修の理念は、崇高な信念と人格をもち、基本的な診療能力及び生涯にわたり自己研鑽する態度を身に付けた自立した医師を育成することです。

初期臨床研修の方針

- ①患者中心の思考・行動をする姿勢を持つこと。
- ②救急医療やプライマリケアなどの診療能力を修得すること。
- ③他の医療スタッフと協調し、安全で質の高いチーム医療を提供すること。
- ④地域のかかりつけ医と連携し地域完結型の医療を学ぶ。
- ⑤症例を通じて、診断・治療の結果だけではなく、プロセスを学ぶ。

1. 令和5年新年のご挨拶

皆さん、明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

2022年は全世界的に大変なことが起きました。勿論、新型コロナウイルス感染症の世界流行pandemicが継続していますが、諸外国の取り組みは日本に比して前向きです。ある意味、楽観的にも考えられます。もう一つは、ロシアのウクライナに対する一方的な侵攻による戦争です。毎年年末には世相を表す漢字が選ばれますが、令和4年を表す漢字は、「戦」でした。医師の間でも令和4年を表す漢字として同様に「戦」が選ばれました。医師の場合には、先に述べました、「コロナとの闘い」と「ロシアのウクライナ侵攻による戦争」を意味していると思われます。

この原稿を書いている令和4年12月下旬は、丁度広島県のコロナ感染の第8波の最中で、広島県が独自に定める緊急フェーズ2に入ったところです。ウイルスは本来自分が生きていくために、感染力を増す一方、弱毒化して感染個体の致死率は下がります。従って生体内(この場合はヒトの身体内)にはびこる(蔓延る)性格が強くなってきます。今まさにその状況で、感染症予防法の2類相当から5類(あるいは相当)への変更のタイミングを政府は見計らっている状況と考えられます。

コロナ旋風が立ち去った後、以前のような生



院長 栗栖 薫
広島大学 名誉教授

活がすぐ復帰するとは考えられません。アフターコロナを待っていると更に先になりそうです。With COVID-19 virusウィズコロナウイルスが基本となる生活が安全に過ごせるようにならないといけません。そのためにも、安全で有効なお薬が安価で安定的に供給されないといけません。診断に必要な検査キットの安定的供給と内服したら3日後には、出勤していいよ、と言われるような体制がとれば皆安心して生活が出来ます。

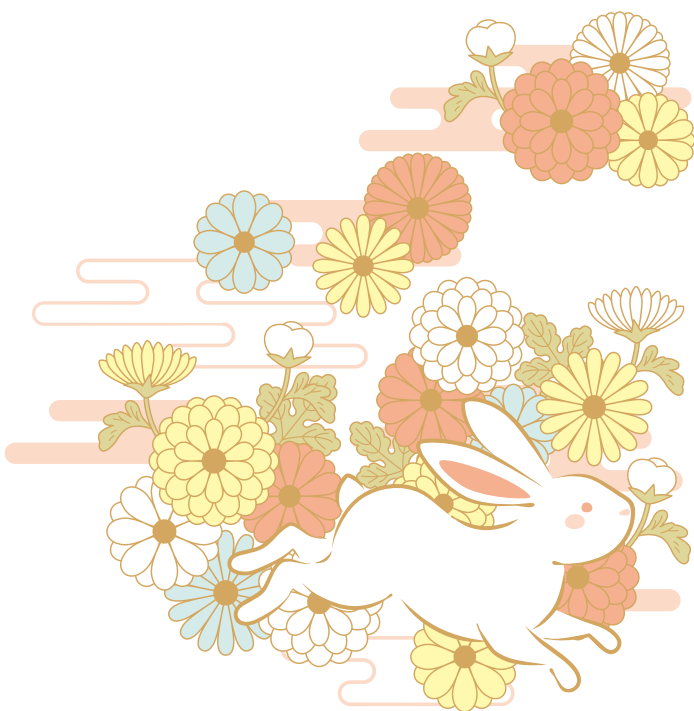
さて、中国労災病院も昨年大きく変化あるいは進展したことがありました。一つは、労災病院の本来の使命である、勤労者の健康と福祉を前面に出した、基本理念の改訂です。「働く人」のため、を最初に記載しました。それから、病院自体のロゴマークを制定したことです。それまで機構のロゴマークはありましたが、独自のものはありませんでした。広報誌やHPに掲載しておりますので、どうぞご確認下さい。

本院の診療の3本柱の一つに高度先進治療の推進があります。呉医療圏で初めての、そして広島県で広島大学病院に次いで二番目の、純国産内視鏡手術支援ロボットhinotori™を導入し、まずは泌尿器科領域から着実に実践しています。消化器外科、婦人科領域の疾患も保険収載がされましたので、順次消化器腫瘍や婦人科腫瘍の低侵襲な手術が当院で可能になってきます。もう一つは、総合実習・研修センターの設立です。救急外来横に旧棟を改修し一部はシミュレーション研修もできるスキルスラボを含んだセンターの改修工事が始まりました。我々の保健福祉医療の世界は最終的には、優れた次世代の医療関係者を世に送り出す使命を持っております。医療系の大学から多くの学生の実習を受け

入れ対応していますが、国家試験合格後はそれぞれの領域の研修を当院で行っています。学生時代から専門的職能人になった後もシームレスに生涯教育に関わることができるように致しました。

令和も早5年です。近年、毎年のように繰り返される自然災害やこの3年間の感染症の世界的流行など、決して明るい話題ばかりではありません。しかし、その一方でワールドカップでの快挙や日本独自の月面探査の開始など、明るい話題も出ています。結局、最後はヒト、人材です。将来ある若い方々が少しでも前向きに歩める社会に私たちも協力して医療福祉保健の方面からアプローチしていきたいと思っています。

令和5年が、皆様にとって健康で、平和で、そして輝かしい一年になりますことを祈念申し上げて、新年のご挨拶とさせていただきます。今年一年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



2. 地域の心臓救急を守れ! ～年中無休、24時間対応で心臓救急を行っています～

初めまして。中国労災病院 循環器内科の松田圭司(まつだ けいじ)と申します。

中国労災病院は呉市広にありますが、その医療圏は、西は江田島などの島しょ部、東は竹原市、北は東広島市、南は大崎下島などの島しょ部まで広い診療圏を有し、呉の病院の中で最も救急車の受け入れ患者さんが多い病院です。

我々はこの医療圏の患者さんに対し、できる限り良質な循環器医療を提供できるよう日々努力し、ブラッシュアップするように心がけています。

中国労災病院 循環器内科

2021年4月から現在の5人体制となり、24時間365日循環器内科医師が院内PHSで対応できる体制を作りました。

循環器急性期治療を当院で行い、その後高度先進医療が必要な患者さんに関しては広島大学病院と連携をとり、その橋渡しもしております。

日本心血管インターベンション治療学会(CVIT)認定施設は2021年9月から取得しました。

どの地域にも負けない循環器医療を提供できるよう頑張っていますので、その一部を報告します。

1. 循環器疾患と 急性期循環器治療とは？

循環器疾患には急性心筋梗塞を含む虚血性心疾患、急性心不全、致死性、徐脈性を含む様々な

不整脈、肺塞栓症、大動脈解離、心筋症、急性心筋炎、高血圧緊急症、下肢閉塞性動脈硬化症等が含まれます。



松田 圭司
循環器内科 部長

24時間体制の心臓カテーテル検査、治療が必要になります。

特に急性心筋梗塞では当院に受け入れ後平均1時間以内に閉塞した冠動脈の再疎通に成功しています。

血行動態破綻例に対しては大動脈バルーンポンピング、ECMO、BiPAP、CHDF等の機械的補助を使用しています。

ECMO は新型コロナ感染症で有名になりましたが、当院では心肺停止例に関しても積極的に使用しています。

常に救急医と連携した診療を行っています。

当院は各科の連携が良いのも特徴です。

循環器内科も色々な科と連携をとっています。特に救急医とは良好な連携体制であり、協力して急性期医療に対応しています。

2. 冠動脈カテーテル治療(PCI)への積極的な対応

“当院でできる治療は当院で”を合言葉に、PCIも積極的にかつ安全を心掛けて行っております。

PCI件数の推移



各病院ではコロナ禍でPCI件数が落ちている病院も多いですが、当院では2022年度(2021年12月～2022年12月)の一年間は200件を超えるPCIを行っています。

ただ適応が甘くなっているといけないため、心筋シンチやFFR等を積極的に行い虚血が証明された病変のみ治療を行っています。

また患者さんの負担にならないようにできるだけ桡骨動脈からの治療を心掛けています。

3. 冠動脈高度石灰化病変に対する ロータブレーターの再開

PCIが増えた理由として2021年12月よりロータブレーターを再開したことが一つと考えられます。



Boston Scientific 提供画像

ロータブレーターは、14～20万回転で高速回転するダイヤモンドチップが植え込まれたBurrで、石灰化の強い冠動脈の石灰化部分のみ切削する治療ですが通常の治療では拡張できない病変が治療可能となりました。

一年間で24症例にロータブレーターを施行しましたが、大きな合併症なく治療を行うことができました。

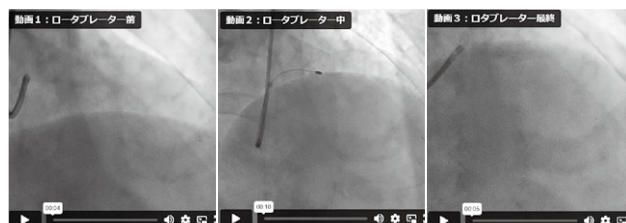
一例症例を提示します。

頻回の胸痛で紹介された78歳男性

冠動脈造影検査と冠動脈CTでは左前下行枝に高度の石灰化と高度狭窄を認めました。

ロータブレーターで高度石灰化のアブレーションを行い、最終的に薬剤溶出性ステント挿入し良好な拡張を得ることができました。

今後も安全性を考慮しながら、積極的に治療を行っていきたいと考えております。



動画1:ロータブレーター前 動画2:ロータブレーター中 動画3:ロータブレーター最後

動画については、M3サイトを
ご覧ください



4. リードレスペースメーカー の導入

2021年9月からリードレスペースメーカーも植え込みができる体制となりました。

当院の医療圏は高齢化が進んでおり、通常の

ペースメーカーの適応になりにくい場合も増えてきました。

その為より合併症が少ないリードレスペースメーカーを導入しました。

大腿静脈より、カテーテルで右室内にペースメーカーを植え込む治療になります。

早期の合併症の可能性はありますが長期的にみると通常のペースメーカーと比較し合併症を半分に抑えると報告されています。

循環器内科スタッフ全員がリードレスペースメーカー挿入の講習を修了し互いに安全性を確認しながら留置術を行っています。



Boston Scientific 提供画像

2022年11月までで21例の留置に成功、2例で大腿静脈穿刺部の合併症(合併症率9.5%)がありました。心嚢水貯留など重篤な合併症は起こっておりません。

徐脈性心房細動に伴う心不全で受診した92歳男性

認知症もあり家族と相談しリードレスペースメーカーを選択しました。

実際に右室にリードレスペースメーカーを挿入している動画になります。



動画4: リードレスペースメーカー

動画については、M3サイトを
ご覧ください



2022年1月からは心房も感知できるリードレスペースメーカー (Micra AV) も販売が開始され、当院でも心房波の感知が必要な患者さんには積極的に導入しております。

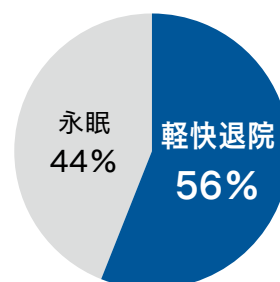
今後も通常型のペースメーカーとの適応を考えながら、高齢者の命を守る点からも積極的にリードレスペースメーカーも使用していこうと考えています。

5. 心肺停止の患者さんに対する ECMOの使用

新型コロナウイルス感染症の重篤例に対する使用で認知度を高めたECMOですが、本邦ではもともと循環器疾患に主に使用されてきました。

心肺停止例に対するECMOの導入は難易度が高い治療になりますが、当院では適応症例に対して積極的に導入する方針としています。

心肺停止患者へのECMO使用



2021年4月から2022年11月まで9例の心肺停止の患者さんに対してECMOを導入しましたが、5例56%で軽快退院させることができました。

6. その他の治療・検査

2021年4月からAngio CTを使用した積極的な下肢閉塞動脈硬化症に対する治療を行っています。

その他経食道心エコーを含めた心エコー（心エコーに関しては検査技師さんにも積極的に関わっていただいています）、心臓CT、心臓MRI、心筋シンチ、CPXを含めた運動負荷、Holter ECG、植え込み型ループ心電計等の検査、診断で急性期医療だけではなく、地域医療により貢献できればと考えています。

7. 心臓リハビリテーションの積極的導入

当院は急性期医療ではありません。

急性期医療で搬送、急性期の治療が終わればそこで終わりでは、患者さんの積極的な社会復帰の手助けにならないと考えています。

またコロナ禍でサルコペニアが進行する方も多く、それによる心不全患者さんも増えてきております。

当院は心不全に対しても24時間循環器内科が対応する数少ない病院と自負しておりますが、加えて広島大学循環器内科を中心とした「心臓いきいき事業」に呉市で唯一参加し、多職種で心不全の再発防止のため包括的な心臓リハビリテーションを行っています。

心臓リハビリ上級指導士1名、心臓リハビリ指導士2名、慢性心不全看護認定看護師1名、心不全療養指導士1名との協力で入院、外来での積極的なCPX施行（CPXでは、心疾患患者の適度の運動負荷量、適度の運動負荷時の脈拍数等を測定することができます）、心疾患入院患者全員へのリハビリ介入、積極的な外来心臓リハビリの継続、看護外来での心不全再発予防の指導等、心臓病手帳を用い地域との連携を並行させて行いながら、急性期医療を乗り越えた患者さんがこれまでの生活を取り戻すよう手助けができればと考えています。

動画は、心臓リハビリテーションの光景です。

医師がモニターを確認しながらPT、心不全認定看護師が患者さんとお話しながらリハビリを行っています。



心臓リハビリテーションの光景

動画については、M3サイトを
ご覧ください



通常のエルゴメーターができない方もリカンベントで座位のまま漕ぐことができる機器も導入しています。

最後に

まだまだ力不足ですが、我々循環器内科医5名、循環器疾患に関わっている多くのコメディ

カルまた連携している救急の先生を中心とした他科の先生とともに、循環器急性期治療に取り組み、急性期から回復し退院後も今までの生活が送れるよう(目標としては今までの生活よりより良いものとするよう)積極的に関わってい

こうと考えています。

諸先生方にはぜひ色々な叱咤、激励をいただければ幸いです。

今後とも中国労災病院をよろしく願いいたします。

3. 内視鏡室のご案内

平素より大変お世話になっております。当施設では、本年4月に内視鏡室の拡張工事を行い、新検査室、説明室を設け、より充実した内視鏡検査、治療に取り組んでおります。

また、苦痛の少ない検査治療のため、ご希望の方全員に鎮静下での検査治療を行っております。



現在は人的問題で回復室は運用できておりませんが、まだまだ鎮静を受ける方を増やせる方向で検討しております。

上部内視鏡検査につきましては以前からご紹介をいただいた当日に検査可能な体制をとってきています。大腸内視鏡検査についてもご紹介当日にできないかという要望をいただいておりますので、2023年1月から大腸内視鏡検査の

当日施行を開始しました。

なお、便秘がある方は、検査前1週間の下剤処方をご検討くださいますと幸いです。

当日施行を希望される患者さんについては、診療予約票に、“当日CF希望”のご記入をお願いします。

内視鏡検査につきましては、早期胃癌、表在型食道癌、早期大腸癌に対するESDを積極的に行っております。外科手術になるか判断に迷う症例でもいつでもご紹介いただけますと幸いです。また、大腸腺腫につきましては10mm程度までであれば、外来で検査当日にコールドポリペクトミーを行っています。抗血栓薬を内服中の患者様についても、内服を中止することなく実施しています。胆膵領域につきましても ERCP は年々増えており、胆膵の複雑な検査、治療も充分対応可能です。

検査のみの目的でも、精査治療の目的でも、お気軽にご紹介いただけますと幸いです。今後とも、何卒よろしくお願い申し上げます。



実綿 倫宏

内視鏡検査・治療センター長

4. 連携室からのお知らせ

2022年12月から

連携室の電話回線を増設しました。

地域医療連携アンケートで連携室の電話がつながりにくいというご意見を受けて
専用回線(0823-74-0321)を1回線→2回線に増設しました。



2023年1月から

紹介患者さんの当日CF開始しました。

紹介患者さんの当日大腸内視鏡検査が可能になりました。(8:30開始)
(便秘のある方は、検査前1週間の下剤処方をご検討くださいますと幸いです。)
ご希望の場合は予約票に“当日CF希望”とご記入の上お申し込みをお願いします。

2023年1月5日から

眼科外来日追加します。

木曜日の外来眼科診療を追加します。
水、木曜日が眼科外来診察日となっております。(水 10:00迄 木 14:30迄)
ご紹介よろしくお願いいたします。



2023年1月12日から

泌尿器科外来診察曜日の変更について

木曜日が終日手術日となり、外来診療を休止しております。
そのため、手術内容によっては、急患をお受けできない
場合がございます。
ご理解のほど何卒よろしくお願いいたします。



地域医療連携ニュース第180号

〒737-0193 広島県呉市広多賀谷1-5-1 Tel.0823-74-0321 Fax.0823-74-6260
中国労災病院 患者サポートセンター <https://www.chugokuh.johas.go.jp/regionalPartner/>
発行日：令和5年1月31日

